

令和3年度 「志教育」実践事例

学校名 宮城県農業高等学校

「志教育」の目標の検証

『夢や志を持った生徒の育成』

1. 様々な体験をとおして、豊かな価値観を育む。
2. 経験の蓄積から困難を乗り越える自信を持たせる。
3. 具体的な進路目標の実現に向かって努力させる。

【実践事例と成果】

1. 企業連携を通じた体験学習プログラムの実施と意識の涵養
 - ・カルビーとの連携授業（園芸科露地野菜部門）
じゃがいもの栽培，加工，商品開発に至るまでの流れと体験を通して学び，社会に出るための基礎的資質を身に付けた。
 - ・クボタとの連携授業（農業科作物部門，園芸科，農業機械科）
鉄コーティング直播きによる良品質米の栽培方法を学ぶとともに，最新式の農業機械について知識・技術の習得することで，機械操作における安全教育の必要性を学ぶことができた。
 - ・農業科畜産部門においては本校の牛の飼育について全農みやぎ・宮城県畜産課・名取岩沼農協・北日本くみあい飼料の方々から飼育等についてアドバイスをいただいた。
 - ・日産サテリオ・宮城トヨタとの連携授業（農業機械科）
電気自動車の仕組みを学び，環境問題について学ぶ事ができた。
 - ・南極教室の実施（生活科）
生活科1年～3年の生徒が授業において南極昭和基地とオンラインで結び，普段見ることの出来ない極地の状況を知り，生徒の自然科学への興味関心を高めた。基地内の野菜栽培の状況を知り，施設（水耕）栽培の理解や野菜が我々の生活に必要とされていることを再確認することができた。
 - ・ビジネスマナー講座，制服の着こなし講座の実施（進路指導部，生徒指導部）
社会人講師から直接指導をいただくことで，将来への意識を深め，社会人として必要なマナーや服装，言葉遣いについて身に付けることができた。
2. プロジェクト活動の継承による，到達目標の達成
 - ・第72回日本学校農業クラブ全国大会では，農業科作物部門が「#ZERO マイプラ～守れ閑上浜！安全な食料生産と豊かな海づくり～」ではプラスチックコーティング肥料の削減に関するプロジェクトを発表し，プロジェクト発表分野I類優秀賞を受賞し，同大会では意見発表や農業鑑定競技も優秀賞を受賞することができた。
 - ・桜の苗木の育成と栽培方法の研究（科学部・園芸科バイオテクノロジー部門）
震災復興のシンボルとなる桜の苗木をバイオテクノロジー技術を用いて育成するとともに，塩害を回避する独自の栽培方法を確立している。今年度は夏季総合実習において桜の追肥等を行った。

- ・各団体が主催するコンテストに応募し入賞（測量愛好会・農業経営者クラブなど）
各学科で学んだ知識を活かして、個々や団体にコンテストに応募し多くの賞を受賞している。

測量愛好会では平板測量競技大会の練習に取り組み日本学校農業クラブ東北連盟大会において最優秀賞を取ることができた。農業経営者クラブにおいて「私のしごと」作文コンクールにおいて文部科学大臣賞を取ることができ、「スマイルフードコンテスト決勝大会」においては最優秀賞を獲得しアイデアの商品化が決定した。

他にも実習や授業において施設 I 部門の ASIAGAP の認証を受け、第 15 回日本一美味しいお米コンテストにおいて本校の「だて正夢」が高校生部門で最優秀賞を受賞した。他にも今年度様々な賞を受賞している。

3. 生徒会活動の充実・活性化

- ・今年度もコロナ禍の中、各種学校行事が規模縮小や形態を変更せざるを得ない中、生徒会役員は工夫をして学校行事を行う事ができた。10 月には一般公開はできなかったものの学校祭（宮農祭）のステージ発表を行う事ができた。また、学年毎ではあったものの、スポーツ大会を開催し活気あふれる時間を過ごす事ができた。

4. 進路目標の実現

- ・インターンシップの充実による、職業意識の啓発（進路指導部、2 学年ほか）
今年も新型コロナウイルス感染に気をつけながら、進路決定を控えた時期（2 学年）に、インターンシップ（職業体験）を実施、生徒が希望する企業から直接指導を受け、仕事の大切さと心構え体験を通して学び、意識の向上につなげてきた。また学年や分掌部がまとまって事前、事後指導にあたり、次年度の進路決定に向けた大きな活動へと結びついている。

5. 交流活動の実践による地域とのつながりの強化

- ・芋掘り遠足指導を通じた、社会貢献の実践と意識の向上（農業科、園芸科、生活科）
毎年訪れる幼稚園児の芋掘り遠足を成功させるために、生徒が協力してさつまいもの栽培・管理学習に取り組んでいる。また収穫の手伝いをし、園児に教えることで自らの意識を高め、社会に貢献できる人材としての第一歩を踏み出している。
- ・小学生との食育交流事業の実践（農業科作物専攻班、畜産専攻班、食品化学科）
小学生に出前授業を実施、イネの栽培方法やごはん等に関する学習・牛や家畜に直接触れてもらい、生命の大切さと食への関心を高めている。また、一緒に地元食材を使った給食メニューを考案、ともに学び、考えることで地域の資源を見つめ直し、食に関わる人材として必要な問題解決能力を養っている。

6. 朝読書の定着

- ・本年度も始業時間前に 10 分間の朝読書を導入、授業に落ち着いて取り組む環境作りと、集中力の向上さらに基本的生活習慣の確立を図ってきた。特に新入生については学習面、生活面の効果が高く、前年度に比べて大きな改善が見られた。今後も読書の定着と、基礎学力の向上につながる環境作りに取り組んでいきたい。